

子どもの心を耕す読書のすすめ

前回では、「読書が好きになる本の選び方1」として、「子どもの読書力にあった本」「自分の好きな本」ということで、その考え方を述べましたが、今回は、もっと具体的に「幼児期の子どもたちに与える本」について述べることにします。

0歳から2歳ぐらいまでの子どもは、ことばを覚え始めたり、自我が芽生えたり、生活経験が広がるなど成長の著しいときです。何に興味を示しているか、何ができるようになったかなど、子どもの興味や成長に合わせて絵本を選ぶことが大切だと思います。

「どんな本を与えればよいか」についてはいろいろな考え方があると思いますが、ひとつの方法として参考にしていただければと思います。

幼児期
(0歳から2歳)

本の選び方
2

読書が好きになる

1. 子どもの興味や成長に合わせた絵本

はじめは、子どもの身近なものや出来事や遊びを取り上げた絵本を選んであげましょう。

動物の親子や子どものできるようになった動作、たとえば「いないいないばあ」ができるようになったら、それに関連した絵本等を与えるなどです。

絵本を通して、ものに出会わせるだけでなく、実物を見たりさわったり、実際に遊んでみるなどの実生活の体験も同時に広げることが大事です。

2. くり返しのある絵本

幼児はくり返しのある絵本が大好きです。長い文章ではなく、くり返しのあるリズムカルなことばや文章は、何度も読んでもらっているうちに、幼児の中にしっかりと根づき、遊びや行動となって再現されることもあります。

幼児の生活の中に絵本のことばを生かしていけるよう、親(大人)から働きかけてやることも必要なのです。



幼児へ与える絵本は、子どもの想像力を広げるために

わかりやすい絵と短いことばで書かれた絵本をえらびましょう。

子どものことばに反応しながら読みすすめられるように・・・

味

あらかると

新聞を学校教育に活用する運動を展開中の日本新聞教育文化財団は五月二十二日平成十四年(二〇〇二年)度NIE(Newspaper in Education)教育に新聞を の略)実践校を各紙上で発表した。岩手県から北上市の上野中(高橋誠恒校長、新規)など小中高校合わせて九校が認定された。北上市からは黒沢尻北小(平成九、十二年度)口内小(平成十、十三年度)につぐ三校目である。今回の実践校は全国四十二都道府県二百六十六校(小学校八十九校、中学校百二校、高校七十三校、各種学校二校)である。総合学習の時間はじめ特別活動や各教科での生きた教材としての新聞活用を大いに期待したい。

岩手県関係の認定校は

小学校 永井小(盛岡市)枝

成沢小(久慈市)双葉小(釜

石市)

中学校 河南中(盛岡市)亀岳

中(宮古市)上野中(北上市)

大嶺中(浄法寺町)東山中(東

山町)

高校 大野校(大野村)

無邪気さとの出会い

沢内村立せんだん保育所をたずねて

5月の第2月曜日、新緑の山々に囲まれた沢内村に「せんだん保育所」を訪れました。

雨上がりの園庭ではところどころに残る水たまりなどものともせず、子どもたちが元気いっぱい遊びまわっていました。走ったり、自転車や三輪車に乗ったり、遊具で遊んだり、楽しそうな子どもたちです。

私たちが着くと、さっそく興味深々な子どもたちがやって来ました。

「ねえ、何しに来たの？」

「ねえ、みてー。これさー、ウルトラマンコスモスなんだよ。」と、自分の青い長靴を指さした男の子。「あー、この人知ってる。絵本読む人だ！！」

かわいい歓迎を受けて建物の中に入ると、中にはもっと小さな子どももいて、最初ははずかしそうにしながらも徐々にタッチしたり、ボールを転がしてよこしたりなど、遊びのモーションをしかけて来るのにこたえて、しばし子どもたちと戯れました。



「おひるね」に入る直前、「絵本の読み聞かせ」が始まりました。暗くした部屋の中の暖かいふとんの上で、子どもたちはあひるのピーコちゃんと一緒に絵本の世界へ入って行きます。

読み手の「これはなんだろう？ さあ次はどうなっちゃうのかなあ？」などの問いかけに、おもいおもいに答えます。「知ってるよ、これー！赤いのー！」

15分ほどの絵本の時間が終わり、子どもたちは「先生ありがとうございました。」とみんなであいさつし、口々に「また来てね。バイバーイ。」「ピーコちゃんまたね。」「また読んでね。」等々。つぶらな瞳に無邪気な笑顔に出会って、素直な気持ちになれたそんなひとときでした。次回の子どもたちとの再会がとても楽しみです。

ぴぴっと会員の「絵本の読み聞かせ」でした。



虹の ひるば

佐藤 りき子



たなばたづくり（平成13年6月）

園児と中学生の交流から学んだこと

1月のある日、スーパーで中学校の家庭科の先生とお会いしたところ「3年生の女子生徒が保育園の子どもたちと遊びたいと何回も言うので行ってもいいですか。」と相談されました。

日ごろ、中学時代は年齢的にも、自分自身を考えながら他もみることができるので園児との交流は効果的ではないかと考えていたのです。兄弟姉妹が減少してきている現実から考えて、異年齢での交流体験が必要だと思っていた矢先でもありました。

私は「願ってもないことです。」と答えました。

このようなことで、9年前から園児と中学生による交流が行われるようになりました。

受験を控えている時期でもあり、何かと心配でしたが交流してみて、受験期の心の揺れている時に園児と交わることで自分の

気持ちの原点に還れたのではないかと、思いました。

はじめは、家庭科の授業としての体験学習ということでしたので女子だけでしたが、その後、家庭科が男女必修となり男子生徒も交流に参加するようになりました。

このことにより、園児は喜びを体全体で表現し表情も豊かになりました。また、授業としての交流が終わっても個人的な交流が行われるようになり、さらに、将来の職業として保育士の仕事をを目指す生徒もあらわれ、いろいろな意味で交流の成果があったのではないかと考えています。

現在は、1年間に4回交流が行われています。

次回からは、交流の様子について具体的に紹介していきたいと思います。

Q : 見出しをつける場合のアドバイスを
お願いします。

(北上市 中学校PTA広報委員)

見出しとは

「見出しは記事の顔」です。見出しによって、その記事の内容が伝わることが大切です。

次に、具体的に注意したい点について挙げてみます。

1 字の大きさ

記事の重要性に比例して見出しの大きさも変わってきます。もちろん見出しの大きさは、記事の大きさの違いでもあり、みだしだけ大きくて、記事そのものがほんの少しということはありません。

2 大見出しと小見出し ()

記事の一番伝えたい事を大見出し、その補足的な見出しを小見出しとする2段構えの見出しもあります。

3 言葉の選び方 ()

漢字だけの見出し(戒名見出し)はなるべく避けるようにします。また、出来事や行事そのものの名称を使うよりも内容がわかる言葉を使うようにしたいものです。

4 字体 (.)

同一号の中で同じ字体はなるべく避けるようにします。

5 罫線・囲み

文字だけではなく、より強調したりアクセントをつけたい場合に用いるとよいです。

6 イラスト ()

イラストを配置したり、見出し自体をイラスト化してしまうのも、強調という点では効果的です。

見出しは記事の顔

快晴！子ども親ものびのび元気に！

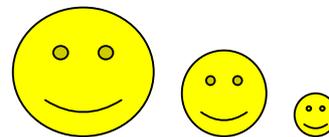
第3回大運動会

快晴！子ども親ものびのび元気に！

第3回大運動会

快晴！子ども親ものびのび元気に！

第3回大運動会



ドリップコーヒーを飲んだあとに...

コーヒー豆でいれる本格的なコーヒー。おいしいですよね。その時出る豆のかす、それを庭に撒くと土の肥料になるのだそうです。それに、におい消しの効果もあるとか。どうぞお試しください。

ちょっと

ひとやすみ

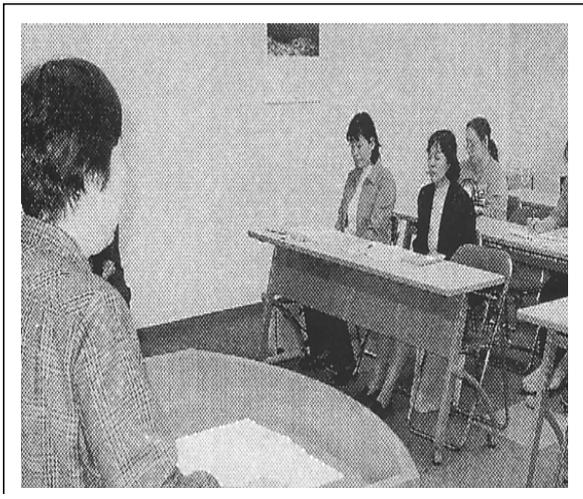
知ってます？

こんなこと

ぴい～たいむ

風が起こるような新聞づくりを

P T A 会報担当者の編集技術講座



熱心に受講している参加者のみなさん

- 日 時 平成 14 年 5 月 7 日 (火)・8 日 (水)
午後 1 時 30 分 ~
- 会 場 北上市生涯学習センター「遊・YOU 学園」
- 主 催 北上市生涯学習課
- 講 師 びびっと研究会会長 小笠原味佐枝

講座の概要

✚新聞や会報をつくる意義とは

- ・ 活動性・・・みんなの生活を高めるため
- ・ 指導性・・・正しい方向にむけるため
- ・ 報道性・・・出来事を知らせ望ましい人間関係をつくるため
- ・ 記録性・・・生活や活動を記録するため

✚会報づくりに入る前のポイント

- ・ 自校に限らずいろいろな P T A 会報を読む
- ・ 自分たちのテーマを持つ
- ・ 保護者の立場を大切にしながらつくる

✚みんなに読まれる新聞をつくるために

- ・ 情報収集、メモを積極的に活用する

本講座に出席くださった 広報委員さんの学校名

北 上 中 学 校
和 賀 東 小 学 校
照 岡 小 学 校
黒 沢 尻 東 小 学 校
鬼 柳 小 学 校
立 花 小 学 校
江 釣 子 小 学 校
黒 岩 小 学 校
黒 沢 尻 北 小 学 校

(「岩手日日新聞」平成 14 年 5 月 8 日付け紙面より)

9 月にも開催しま
す。他の学校の方
もぜひご参加くだ
さい。

6月15日

子どもびびっとクラブ に 参加しよう!

びびっと7号でお知らせした「子どもびびっとクラブ」がいよいよ始まります。
新聞を使った楽しいゲームなどを通し、活字に親しみ表現力や国語力が
自然に身につくよう活字と遊び親しんでいきます。

対象 北上市内小学生
 期日 6月15日(土)
 時間 10:00~12:00
 場所 生涯学習センター「遊・YOU学園」
 参加費用 特にありません
 募集人数 20人
 申し込み方法 氏名・学年・電話番号を記入し、Faxにて
 お申込ください。
 Fax・・・0197-64-0758 (小笠原まで)



『子どもびびっとクラブ』
シンボルマーク

新聞まめちしき

その8 おおこ 大新聞と小新聞とは

明治10年代の新聞界は、といっても東京や大阪を舞台にした話であるが、大体「大新聞」と「小新聞」の二つの型に分かれていたようである。

大新聞

<内容>

「東京日日新聞」「朝野新聞」「東京横浜毎日新聞」「時事新報」等
政論新聞、記事は硬い政治問題 文章は文語体、難しい漢字にも一切ルビ(ふりがな)をつけず、挿絵もなく、連載小説は載せず、街頭での呼び売りもしなかった。

<読者層>

政治家や官史、軍人、学生、資産家など上流階級に限られていた。

<定価>

三、四十銭で高く、特に「郵便報知新聞」は、八十三銭と非常に高かった。

小新聞

<内容>

「読売新聞」「東京絵人新聞」「有喜世新聞」「朝日新聞」等
記事は社会種(殺人・泥棒・火事・心中など)平易な口語文を用い、漢字にはルビをつけ、ひらがなさえ読めれば誰でも読むことができた。木版の挿絵も入れ、連載小説を呼び物とした。町町への呼び売りにも力を入れた。

<読者層>

一般の庶民に人気があった。

<定価>

月二十銭内外で安かった。明治15年頃から部数全国一を誇って独走を続けた大阪の「朝日新聞も」小新聞であった。大新聞は何かにつけて、小新聞を見下し「何を小新聞めが」とお高くとまっていた。

に
第一回「子どもびびっとクラブ」の開催日が間近か
迫り、びびっと一同準備に追われているところですが。
皆さんのご参加をお待ちしています。
会報「びびっと」は、更なる内容充実を図り紙面を
6面に拡大しました。教育現場での生の声を聞き、
研鑽を深めたいと思っています。

編集後記

ご意見・ご感想をお待ちしております

TEL・Fax 0197-64-0758

E-mail : agi@titan.ocn.ne.jp